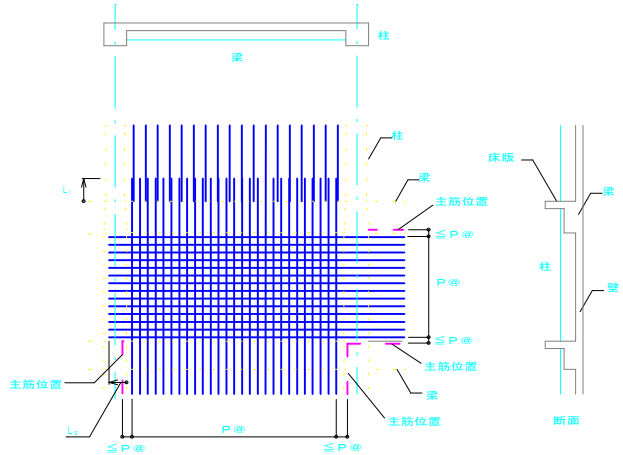


4 建築工事

4. 1 3 壁の配筋要領

4. 1 3. 1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手の長さは L_1 、及び定着の長さは、 L_2 とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さを L_1 、定着長さを L_2 とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは $40d$ とし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、4. 1 3. 1 図による。



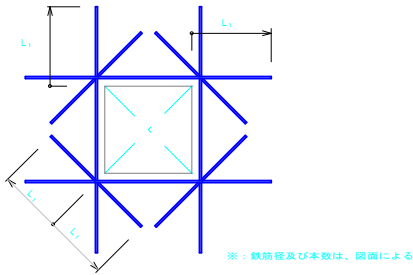
4. 1 3. 1 図 壁の配筋

4. 1 3. 2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

4. 1 3. 3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、4. 1 3. 3 図を標準とする。

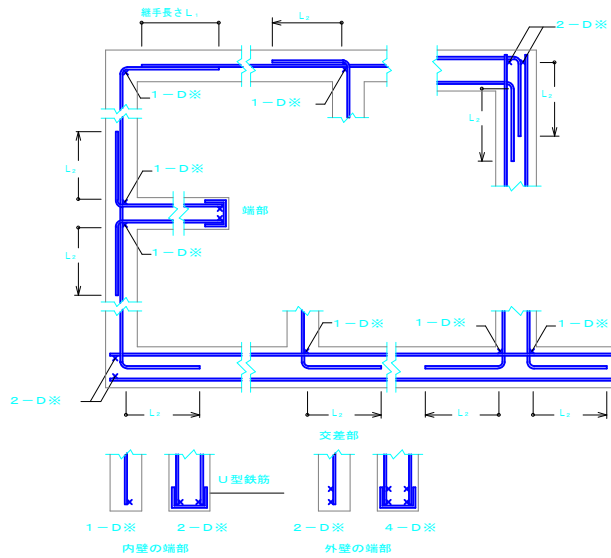


4. 1 3. 3 図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

4. 1 3. 4 壁の交差部及び端部

- 壁と壁の交差部は、4. 1 3. 4 図による。
- a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

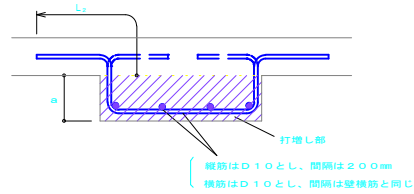


4. 1 3. 4 図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」（建築学会）に基づき図面による。

4. 1 4 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、4. 1 4. 1 図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを超える場合は、特記による。

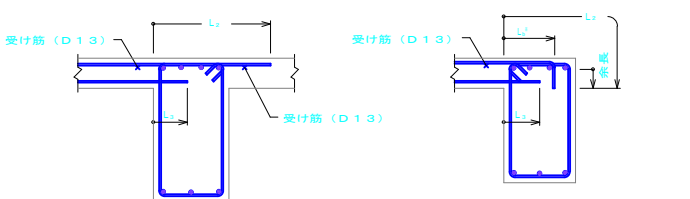


4. 1 4. 1 図 壁の打増し補強配筋

4. 1 5 床の配筋要領

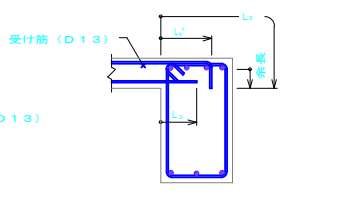
4. 1 5. 1 一般事項

- (1) 鉄筋の継手長さは、 L_1 とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、4. 1 5. 1 図による。ただし、引き通すことができない場合は、4. 1 5. 2 図、4. 1 5. 3 図により梁内に定着する。
- (3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。



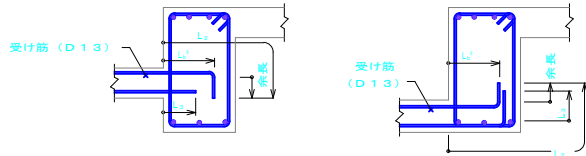
4. 1 5. 1 図 スラブラスの定着長さ

及び受け筋（その1）



4. 1 5. 2 図 スラブラスの定着長さ

及び受け筋（その2）

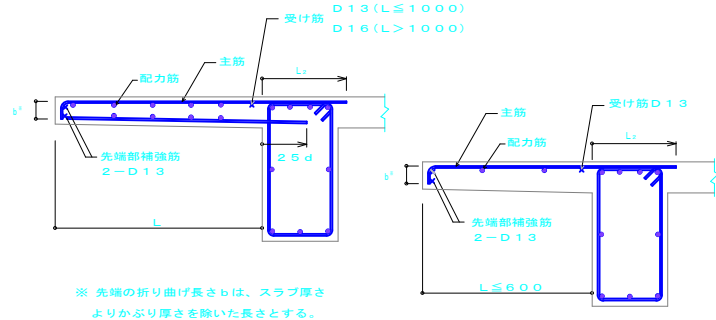


※ 原則として L_2 は、4. 5. 3 表の数値かつ梁幅の $1/2$ 倍以上とする。

4. 1 5. 3 図 スラブラスの定着長さ及び受け筋（その3）

4. 1 5. 2 片持スラブ

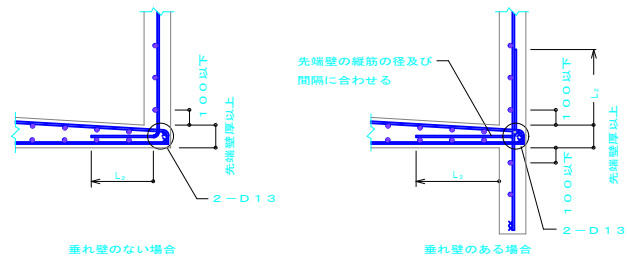
(1) 片持スラブの配筋



※ 先端の折り曲げ長さbは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

4. 1 5. 4 図 片持スラブの配筋

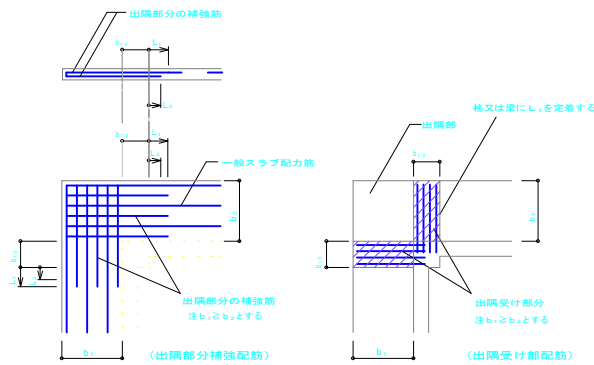
(2) 先端に小梁がなく壁が取り付く場合



4. 1 5. 5 図 先端に壁が付く場合の配筋

4. 1 5. 3 出隅部の配筋方法

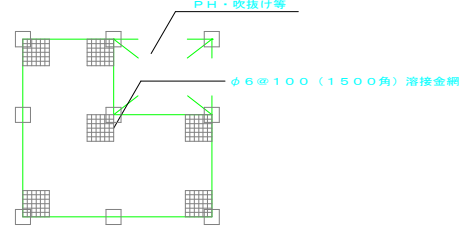
- (1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、4. 1 5. 6 図による。
- 特記にない場合は、D10@100ダブルとする。
- (2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は $b_1/2$ とする)による。



4. 1 5. 6 図 片持スラブラ出隅部の補強配筋

4. 1 5. 4 地上部最上階の屋根床版

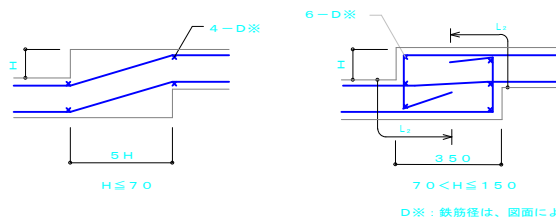
- (1) 出隅及び入隅部分には、4. 1 5. 7 図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。
- (2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。



4. 1 5. 7 図 出隅及び入隅部分の補強配筋

4. 1 5. 5 段差床版の補強

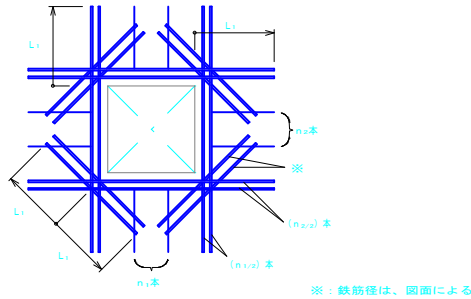
- (1) 同一床版に段差がある場合、4. 1 5. 8 図の補強を行う。ただし、 $H>150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



4. 1 5. 8 図 段差のある床版の補強配筋

4. 1 5. 6 床版開口部の補強

- (1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(4. 1 5. 9 図) 開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



4. 1 5. 9 図 床版開口部の補強配筋

- (2) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

事業名		南魚沼市上水道事業				
工事名		令和2年度 改良第7号 上田配水池建設工事				
施工地名		南魚沼市 蟹沢新田 地内				
構造細目共通図（複合構造物）（11）			縮尺		図示	
図面番号		工期		着手日	令和 年 月 日	
第55/61号				竣工日	令和 年 月 日	
発注者	南魚沼市長			監督員	総括 水道課 上村 栄二 主任 水道課 上村 優	
請負者				（配管）		